往還型カリキュラムについて

北海道教育大学
往還型カリキュラム作成部門

往還型カリキュラムについて

1．往還型カリキュラムの概要

2．往還型カリキュラム開発の取り組み

2−1　各キャンパスの新カリキュラム（教員養成）の構造の分析

2−2　各校の新カリキュラム（教員養成）の「各専門科目等の指標」の作成、ならびに「専門科目等と実習関連科目との関連」の分析

2−3　往還型カリキュラムの全面実施

往還型カリキュラムについて

1．往還型カリキュラムの概要

2．往還型カリキュラム開発の取り組み

2−1　各キャンパスの新カリキュラム（教員養成）の構造の分析

2−2　各校の新カリキュラム（教員養成）の「各専門科目等の指標」の作成、ならびに「専門科目等と実習関連科目との関連」の分析

2−3　往還型カリキュラムの全面実施

教育の質の向上への本学の対応

教員養成課程の人材養成の目的「北海道教育大学憲章」教育に関する目標（抜粋）
現代の学校教育現場の多様な課題に対応できる豊かな人間性，幅広い教養と知性並びに専門的能力を育て，北海道の地域特性を生かした教育実践を創造的に展開する教師を養成する。

本GPの取組は，養成目的とする資質を明らかにして、

１）理論－実践往還型カリキュラムの考え方を
教員養成課程の専門科目に適用し，
２）チェックリストを改訂し
新たにステップアップ型チェックリストを開発し，
３）電子ポートフォリオは、実践体験や授業科目における
学生の成長の履歴をWeb上に毎年蓄積し，
新チェックリストを元に資質毎に４年間の伸びを確認する。

これら３点によって実践的指導力を身に付けた教員を養成できるようにすることを目指す。

カリキュラム再編の重点と課題

カリキュラム改革

実践体験の量的･質的充実
(基礎実習、教育フィールド研究、教育実習等)、FD、成績基準明示、教職スーパーバイザー配置

チェックリストの開発

評価指標の明示
(学生の目標設定･自己評価、大学･実習校の評価に活用)

課　題

実践と理論との関連性が不十分
実践体験と大学専門科目が遊離

課　題

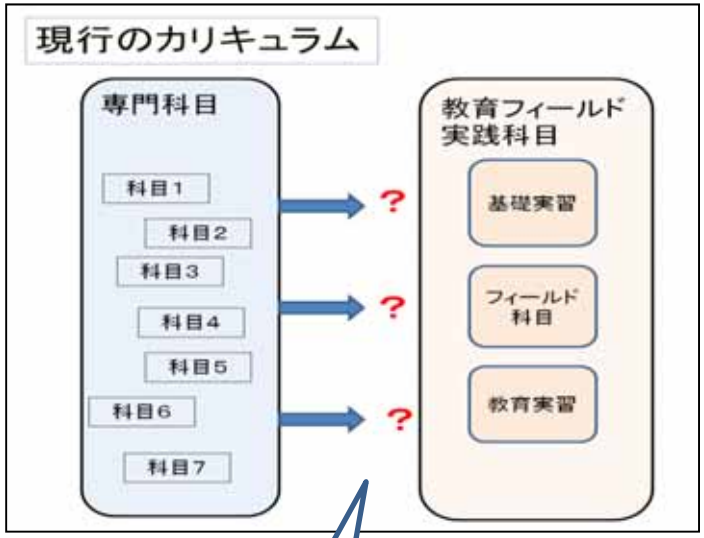
網羅的すぎ、項目が多い
実践体験の段階別に整理されていない

理論－実践往還型カリキュラムの開発

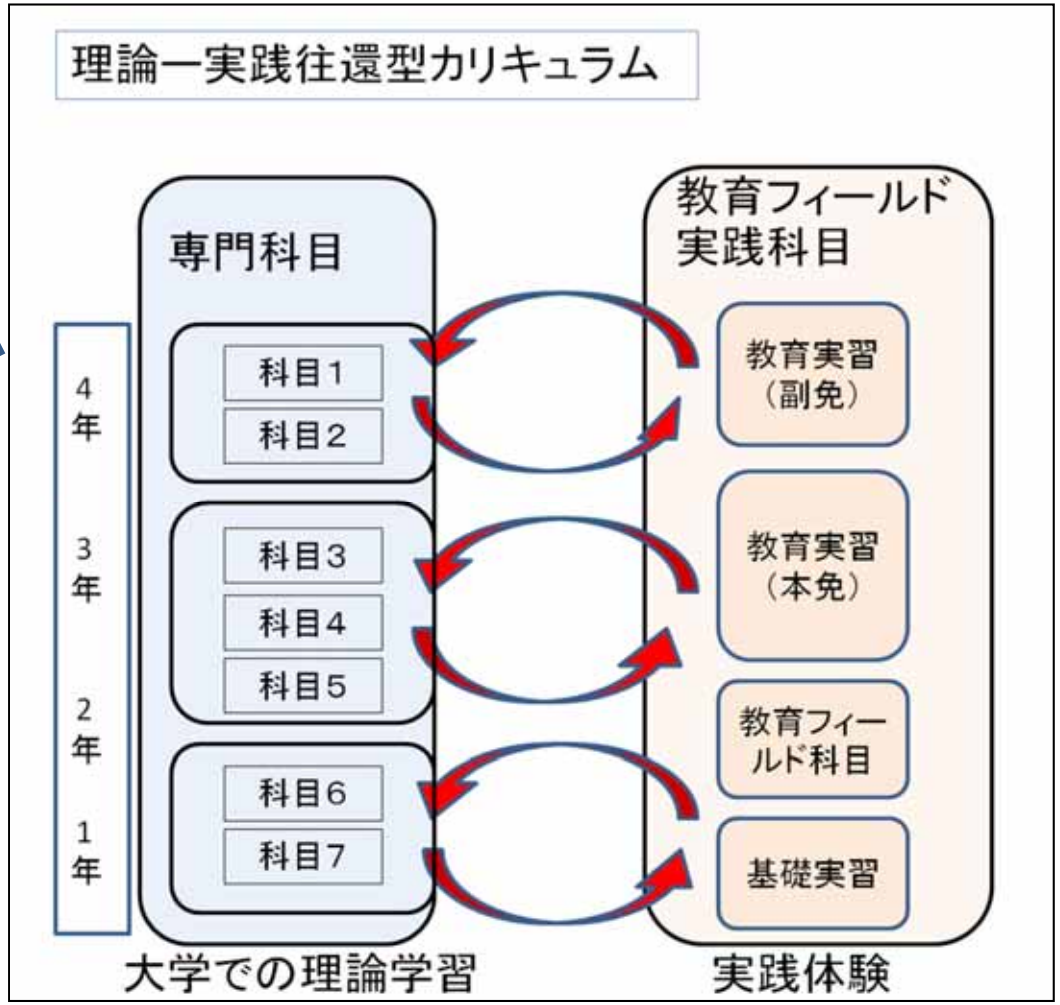
電子ポートフォリオの開発

ステップアップ型チェックリストの開発

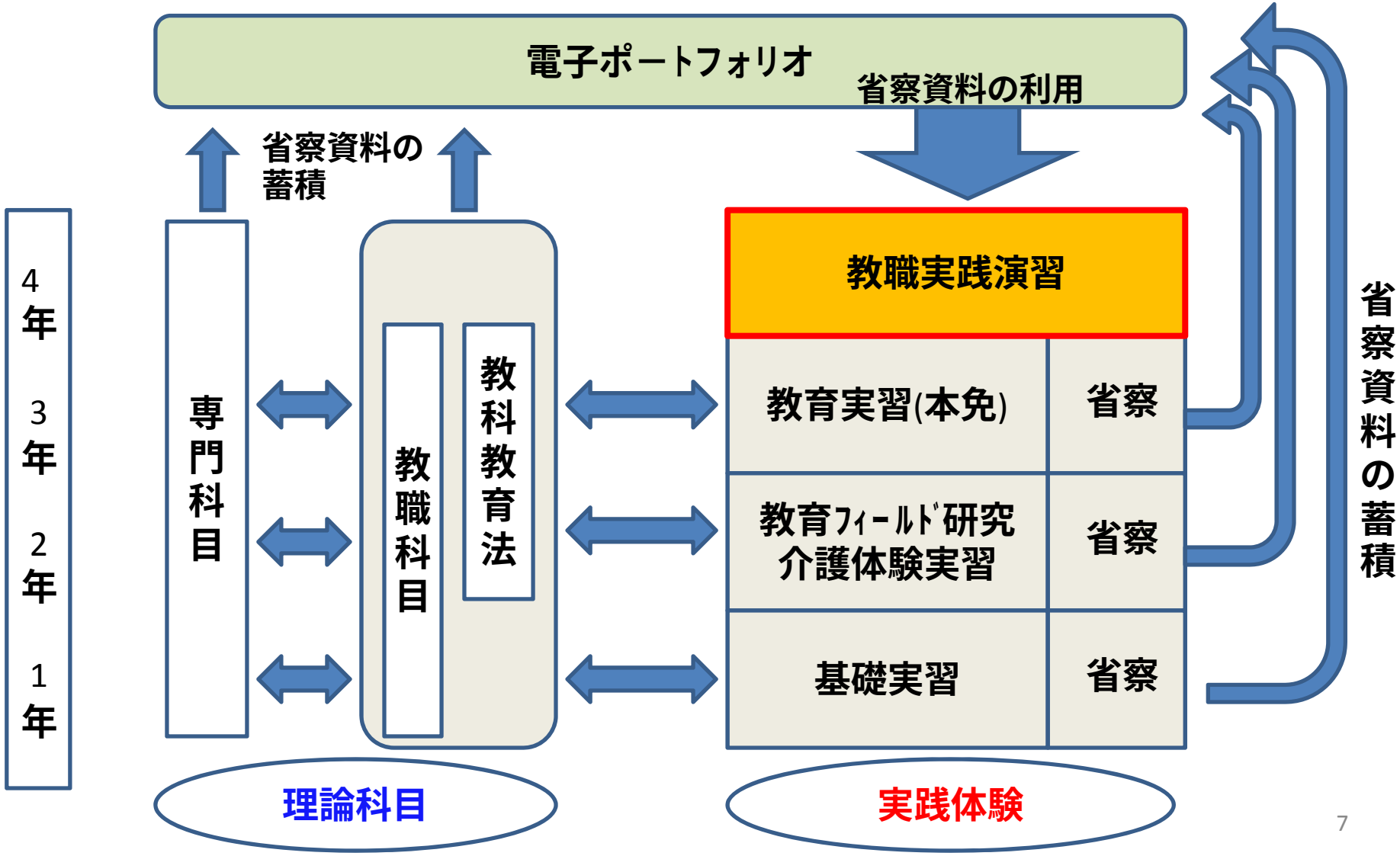
理論－実践往還型カリキュラム構造



理論と実践の
関連性が薄い



理論と実践の往還イメージ
教職実践演習へのつながりと電子ポートフォリオの役割



往還型カリキュラムについて

1．往還型カリキュラムの概要

2．往還型カリキュラム開発の取り組み

2−1　各キャンパスの新カリキュラム（教員養成）の構造の分析

2−2　各校の新カリキュラム（教員養成）の「各専門科目等の指標」の作成、ならびに「専門科目等と実習関連科目との関連」の分析

2−3　往還型カリキュラムの全面実施

「充実した教員養成のためのコアカリキュラム」の見直し

往還型カリキュラム作成部門資料（2009.2.6）

カリキュラム構造（札幌校）

学年	教養科目	専門科目 教育実践教育科目	専門科目 教育実践フィールド科目 教育実習	教育フィールド研究	教育実践論	専門科目 教科指導科目	専門科目 教科内容科目・専攻科目	卒業研究	研究発展科目
4			教育実習（副免）	教育フィールド研究 I,II（教育支援活動） 教育フィールド研究 IV（グループ、研究室）	野外教育論 ボランティア論 体験学習論 へき地教育指導法 総合学習実践論 養護実践論			卒業研究	研究発展科目
3		教育相談	教育実習（主免）	教育フィールド研究 I,II（教育支援活動） 教育フィールド研究 IV（グループ、研究室）		教科教育指導法		—	
2		教育課程 生徒指導 特別活動 教育制度 学校経営		教育フィールド研究 III（介護等体験） 教育フィールド研究 IV（グループ、研究室）				—	
1		教職論 総合演習 発達と学習 教育の理念 道徳指導法	基礎実習	教育フィールド研究 I,II（学校支援ボランティア）		—		—	—

新カリキュラム（教員養成）の構造の分析

- 教育フィールド研究、教育実習等の実践科目をコアとして形成されている．しかし、コアカリキュラムの充実という観点では、新カリキュラム（教員養成）は、理論と実践の結びつきが「教育実践フィールド科目」に限定されており、授業科目（教科専門科目、場合によっては教科専門科目等）との関連が不明確である。
- これらを改善し、再編後の本学が目指した教員養成をいっそう向上させるために、理論と実践とを結びつけるというカリキュラム構成の原理（理論－実践往還型カリキュラム）を、導入する必要性が認められた。
- すなわち、形成しようとする力量のレベルが同一である理論科目と実践科目（ボランティア科目を含む体験活動）とを有機的に結びつけ、これらの科目を同一学期にあるいは前･後期と連続して受講させ、最終的に「教職実践演習」でそれを集大成することで、学生の力量形成を確実に、かつ段階的に行えるようなカリキュラム構造（往還型カリキュラム）を実現する。
- 具体的には、まず各キャンパスの理論科目と実践科目の積み上げを明瞭にすることが必要である。そのために、実践教育科目、教科指導科目、教科内容科目のそれぞれを、構造的に積み上げ方式とできるか検討し、本GPで改訂される改訂版チェックリストを実践教育科目、教科指導科目、教科内容科目のそれぞれに適用することとした。具体化および実施はシラバスの改編で行うこととした。

往還型カリキュラムについて

1．往還型カリキュラムの概要

2．往還型カリキュラム開発の取り組み

2−1　各キャンパスの新カリキュラム（教員養成）の構造の分析

2−2　各校の新カリキュラム（教員養成）の「各専門科目等の指標」の作成、ならびに「専門科目等と実習関連科目との関連」の分析

2−3　往還型カリキュラムの全面実施

「各専門科目等の指標」の作成

2010年度入学生用　　札幌校

教職共通

力量形成のための4つの視点	中項目（今回は記入しない）	小項目概要（今回は記入しない）	指標（チェックリスト項目）		科目名																
					教職論	発達と学習	教育の基礎と理念	道徳の指導法	教育課程と教育方法	生徒指導・進路指導の理論と実際	特別活動の指導法	教育の制度と社会	学校経営と学級経営	教育相談の理論と方法	野外教育論	ボランティア論	体験学習論	へき地教育指導法	社会学習実践論	環境マネジメント	
学習指導			1-1	専門的知識・技能の修得	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			1-1-7																		
			1-2	授業（模擬授業）参観																	
			1-3	授業（指導案）分析																	
			1-4	授業実践																	
児童・生徒理解			2-1	自己成長力																	
			2-2	教育相談力																	
			2-3	学級経営力																	
			2-4	生徒指導力																	
社会性・対人関係			3-1-2	授業や各種活動の中で積極的に話し合いや共同作業に関わる																○	
			3-2	地域連携																	
教育的愛情・使命感・責任感			4-1	課題意識																	
			4-2	児童・生徒への共感的理解、自己肯定感																	
			4-3	環境整備・危機管理																	
			4-4	家庭・地域との協力																	

*各科目の目標を記載し、該当することろに「○」を記入してください。
*ステップアップ・チェックリストに該当する項目がある場合は、そちらを記入しない場合は適当な目標を作成の上記入してください。
*各科目の目標は複数でもかまいません。
*足りない場合には、行又は列を挿入してください。

「教職科目および教科教育法の理論科目」と「その他専門科目」との関連性

（仮）（案）札幌校

【教育実践論】専門科目／実習との関連

専門科目（および教科教育法）と実習（教育フィールド研究を含む）との横断しとしての位置づけ

科目名	履修年次	専門科目との関連	実習との関連	（1）履修学年固定の可能性	（2）望ましい履修学年	（1）（2）の場合の専門科目／実習との関連	（1）（2）の場合の実習との関連
野外教育論（選必）	1 ～ 4年	○○の基礎的内容を学ぶ／○○の学習に生かされる。	○○実習における○○に生かされる	固定	年	○○を学んでいる段階で学んだ方が良い／○○実習の前に学んだ方が良い／○○実習の後に学んだ方が良い	○○実習における○○に生かされる
ボランティア論（選必）	1 ー 4年	○○の基礎的内容を学ぶ／○○の学習に生かされる。	○ ○実習における○○に生かされる ＊ 介護等体験との関連づけられないか？ ＊ 教育フィールド研究 I&II に関連づけられないか？	固定	年	○○を学んでいる段階で学んだ方が良い／○○実習の前に学んだ方が良い／○○実習の後に学んだ方が良い	○○実習における○○に生かされる
体験学習論（選必）	1 ー 4年	○○の基礎的内容を学ぶ／○○の学習に生かされる。	○○実習における○○に生かされる	固定	年	○○を学んでいる段階で学んだ方が良い／○○実習の前に学んだ方が良い／○○実習の後に学んだ方が良い	○○実習における○○に生かされる
へき地教育指導法（選必）	1 ー 4年	○○の基礎的内容を学ぶ／○○の学習に生かされる。	へき地校体験実習実習における教材開発に生かされる	固定	1年	へき地教育論を学んだ後に学んだ方が良い。あへき地校体験実習実習の前に学んだ方が良い／基礎実習の後に学んだ方が良い	へき地校体験実習実習における教材開発に生かされる
総合学習実践論（選必）	1 ー 4年	○○の基礎的内容を学ぶ／○○の学習に生かされる。	○○実習における○○に生かされる	固定	年	○○を学んでいる段階で学んだ方が良い／○○実習の前に学んだ方が良い／○○実習の後に学んだ方が良い	○○実習における○○に生かされる
環境マネジメント（選必）	1 ー 4年	環境マネジメントの基礎的内容を学ぶ／総合学習に生かされる。	主免実習における生徒指導や学校活動に生かされる	固定	2年または3年のいずれか	○○を学んでいる段階で学んだ方が良い／主免実習の前に学んだ方が良い	主免実習における生徒指導や学校活動に生かされる

専門科目（および教科教育法）と実習（教育フィールド研究を含む）との橋渡しとしての位置づけ

科目名	履修年次	専門科目との関連	実習との関連	（1）履修学年固定の可能性	（い
野外教育論（選必）	1 ～ 4年	○○の基礎的内容を学ぶ／○○の学習に生かされる。	○○実習における○○に生かされる	固定	
ボランティア論（選必）	1 ー 4年	○○の基礎的内容を学ぶ／○○の学習に生かされる。	○ ○実習における○○に生かされる ※ 介護等体験との関連づけられないか？ ※ 教育フィールド研究 I&II に関連づけられないか？	固定	
体験学習論（選必）	1 ー 4年	○○の基礎的内容を学ぶ／○○の学習に生かされる。	○○実習における○○に生かされる	固定	

「専門科目等と実習関連科目との関連」を明確に

科目番号	授　業　科　目	単位	開講期	曜日･時限	担 当 教 員	対象学年
	教育実習Ⅰ	4	前期 後期	実習	教育実習委員会	3
授 業 概 要	【授業形態】実習 【授業の目的】 学校現場での教育実習を通して，大学の課程において修得した知識，技能と教育の実際とを有機的に統合させ，教育実践のもつ意味を認識するとともに，教育理論の深化に役立てる。また，教師の職務を体験することによって，自らの教職への適性や進路を考える。 【到達目標】 1．学校教育と教師の教育作用の本質や重要性を正しく理解することができる 2．教師の仕事全般に渡る理解を深め，使命や責任を確認することができる 3．児童･生徒の興味･関心等に対する感受性を高め，児童･生徒を理解することができる 4．教科指導の学識や教育学的素養を広め，深めることができる 5．学校･学級経営の実際や教育の社会における役割を知ることができる 6．他の教師や実習生と連携した教育活動を展開することができる					
授 業 計 画	(各キャンパス実習委員会記載)					
成 績 評 価	実習校の評価に基づき，教育実習への意欲や教育実習記録の内容なども参考にして，教育実習委員会で総合的に評価する。					
テ キ ス ト	なし					
参 考 文 献	なし					
オフィス･アワー	なし					
備　　考 (履修条件･受講上の注意等)	**【チェックリスト】** 1．学習指導力 1-3-1-2　児童生徒の本時学習内容に関わる前時及び既習内容についての理解や習熟の程度を把握する。 1-3-2-4　大学で学んだ専門的知識･技能や指導教員の指導，助言等を基に，「教えること」と「育てること」のバランスを考えた学習指導案を作成する。 1-3-3-5　いろいろな指導技術を適切，効果的に活用する。 2．児童生徒理解 2-3-12　児童生徒が学級活動への意欲を高めるための言葉がけや励ましの大切さと，その方法について理解する。 3．社会性や対人関係能力 3-1-7　実習先の教職員や実習生と意識的にコミュニケーションを図る。 4．教育への使命感や責任感，教育的愛情 4-2-1　教育現場での事例等を通して，子どもに寄り添い受容的共感的に対応するとは具体的にはどうすることなのかを学ぶ。					

新シラバス様式の作成

チェックリストの記載欄の導入

学生の自己評価の指標

英語科目名	単位
英語科目名	2.0

担当教員		
2010年度 前期	木曜3限	授業形態	萬谷 隆一

授業内容	授業形態 演習 授業目的 小学校外国語活動に関する基本的な知識を学び、 初歩的な指導方法・教材にふれる。 到達目標 外国語活動の指導要領を知る 子どもの外国語習得の特性を知る 外国語活動の指導方法・教材の基本を身につける
授業の位置づけ	
授業の目標	
到達目標	
授業計画	1-3: 小学校英語教育の現状 4-5: 臨界期をめぐって; 英語学習に適期はあるのか、発音、文法 6-7: イマージョン教育の諸相 8 : バイリンガルの発達への認知的効果; バイリンガルのメリット 9-10: 韓国の英語教育(NHKアジアの教育) 11-15: 小学校英語活動の授業観察・分析
成績評価	課題4割 ・小レポート2割、テスト3割 参加態度2割 欠席は2回まで可
教職チェックリスト	
テキスト	岡・金森(2006)『小学校英語教育の進め方』成美堂
参考文献	小学校外国語活動研修ガイドブック 文部科学省
オフィス・アワー	火4(萬谷) 月2 (曽川) 月3(佐藤) 月4 (横山) 水5(小野)
(備考(履修条件・履修上の注意等))	参考 小学英語II(後期)附属小実習を含めた実践的演習および関連分野の講義

往還型カリキュラムについて

1．往還型カリキュラムの概要

2．往還型カリキュラム開発の取り組み

2−1　各キャンパスの新カリキュラム（教員養成）の構造の分析

2−2　各校の新カリキュラム（教員養成）の「各専門科目等の指標」の作成、ならびに「専門科目等と実習関連科目との関連」の分析

2−3　往還型カリキュラムの全面実施

小学校英語における理論と実践の往還およびチェックリスト（イメージ）

理論－実践往還型カリキュラム構造

教職実践演習

	理論科目	実践体験
4年	英語教育学演習II 英語教育学演習I 等	教育実習(副免) へき地体験実習
3年	英語教育学講読II 英語教育学講読I 等	教育実習(本免)
2年	小学英語I,II 小学校英語活動 等	教育ﾌｨｰﾙﾄﾞ研究 附属ｸﾞﾙｰﾌﾟ実習
1年	英語教育学概論 教職論 等	基礎実習

チェックリスト例

レベル4
- 地域実態に合った授業を構築できる
- 実践で得た課題を学問的に深化できる　等

レベル3
- 個人差に応じた授業計画･対応ができる
- 教材研究､理論について文献を探せる　等

レベル2
- 児童の個性･学習特性の違いに気づく
- 各種指導理論と方法の知識がある　等

レベル1
- 観察を通して授業の構造が分かる
- 教科指導に必要な基礎知識･ｽｷﾙがある 等

新シラバス様式
北海道教育大学の教育情報システム

全科目でチェックリストの記載を実施

学生の自己評価の指標

			英語科目名	単位
			英語科目名	2.0
		授業形態	担当教員	
2010年度 前期	木曜3限	授業形態	萬谷 隆一	

授業内容	授業形態 演習 授業目的 小学校外国語活動に関する基本的な知識を学び、 初歩的な指導方法・教材にふれる。 到達目標 外国語活動の指導要領を知る 子どもの外国語習得の特性を知る 外国語活動の指導方法・教材の基本を身につける
授業の位置づけ	
授業の目標	
到達目標	
授業計画	1-3: 小学校英語教育の現状 4-5: 臨界期をめぐって; 英語学習に適期はあるのか、発音、文法 6-7: イマージョン教育の諸相 8 : バイリンガルの発達への認知的効果; バイリンガルのメリット 9-10: 韓国の英語教育(NHKアジアの教育) 11-15: 小学校英語活動の授業観察・分析
成績評価	課題4割 ・小レポート2割、テスト3割 参加態度2割 欠席は2回まで可
教職チェックリスト	
テキスト	岡・金森(2006)『小学校英語教育の進め方』成美堂
参考文献	小学校外国語活動研修ガイドブック 文部科学省
オフィス・アワー	火4(萬谷) 月2 (曽川) 月3(佐藤) 月4 (横山) 水5(小野)
(備考(履修条件・履修上の注意等)	参考 小学英語II(後期)附属小実習を含めた実践的演習および関連分野の講義